

若者からみた 宮崎の地域活性化とは

2019年5月31日

宮崎大学 地域資源創成学部

3年 外山 開成

自己紹介

外山開成(21) 宮崎県 宮崎市出身

宮崎大宮高校 卒業

宮崎大学 地域資源創成学部 入学（現3年）

地域資源創成学部とは

（大学案内パンフレット2019より抜粋）

経営の視点をもって地域を持続的に発展させる方法を考え、実践できる人材を育てます。そのために、法学・経済学・社会学・農学・工学などの幅広い学びを提供して、より地域を深く理解し、革新的な価値を創出できる教育を行います。さらに実践力を鍛えるために、地域での実践を行う実習を数多く用意しています。



自己紹介－これまでの経験①

大学1年 8月～3月：ビジネスプランコンテストに出場

- ・ 障がい者の手続きに関する課題を解決するアイデア
- ・ 全国大会で優勝、シリコンバレーでピッチの経験



自己紹介－これまでの経験②

大学2年 2月～3月：宮城県石巻市でインターンシップ

- ・1か月間の実践型インターンシップ（学部必修）
- ・水産加工会社の次期社長と新規事業の立案プロジェクト



自己紹介－現在

大学2年 10月～：宮崎大学 土屋研究室 配属

- ・マーケティングを学び、実践するゼミ
- ・地域の課題をマーケティングを活用して解決



目次

1. 地域活性化とは
2. 地域活性化における人口流出とは
3. 質的人材の種類
4. 若者と地域活性化
5. 若者が求めるもの
6. まとめ

1. 地域活性化とは

「地域活性化」とは何か

抽象的で曖昧な表現



宮城県石巻市での活動期間に
「地域活性化」を体感する

1. 地域活性化とは



ISHINOMAKI2.0

東日本大震災を経験した石巻というまちを、震災前の状況に戻すだけではなく、新しいまちへとバージョンアップさせるために2011年6月に設立された団体。「世界で一番面白い街を作ろう」のコンセプトのもと街づくりをはじめとする様々なプロジェクトを生み出している。

FISHERMAN JAPAN

「漁業をカッコよく」をコンセプトに集まった東北の若手漁師集団。カッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」を目指し、既存の枠を超え、次世代へ続く未来の水産業を実現する。漁業関係人口を増やす取り組みとして、若者に対して漁業体験や、漁師とのマッチング、シェアハウスの提供など様々な支援を実施。その他、直営の居酒屋やプロモーション企画を行っている。



1. 地域活性化とは

- ・石巻では、当事者意識を持って課題解決に取り組む大人たちの姿があった
- ・「復興」ではなく、「未来の地域をどうしたいか」というニュアンス



地域活性化とは
「自分たちの好きな地域が、自分たちの好きな地域であるように努力し続けること」
であると感じた

※再生・維持・発展のフェーズ

2. 地域活性化における人口流出とは

人口流出の課題

進学や就職の時期に当たる**15歳から24歳までの年齢階級**で**県外への転出が多くなっている現状**



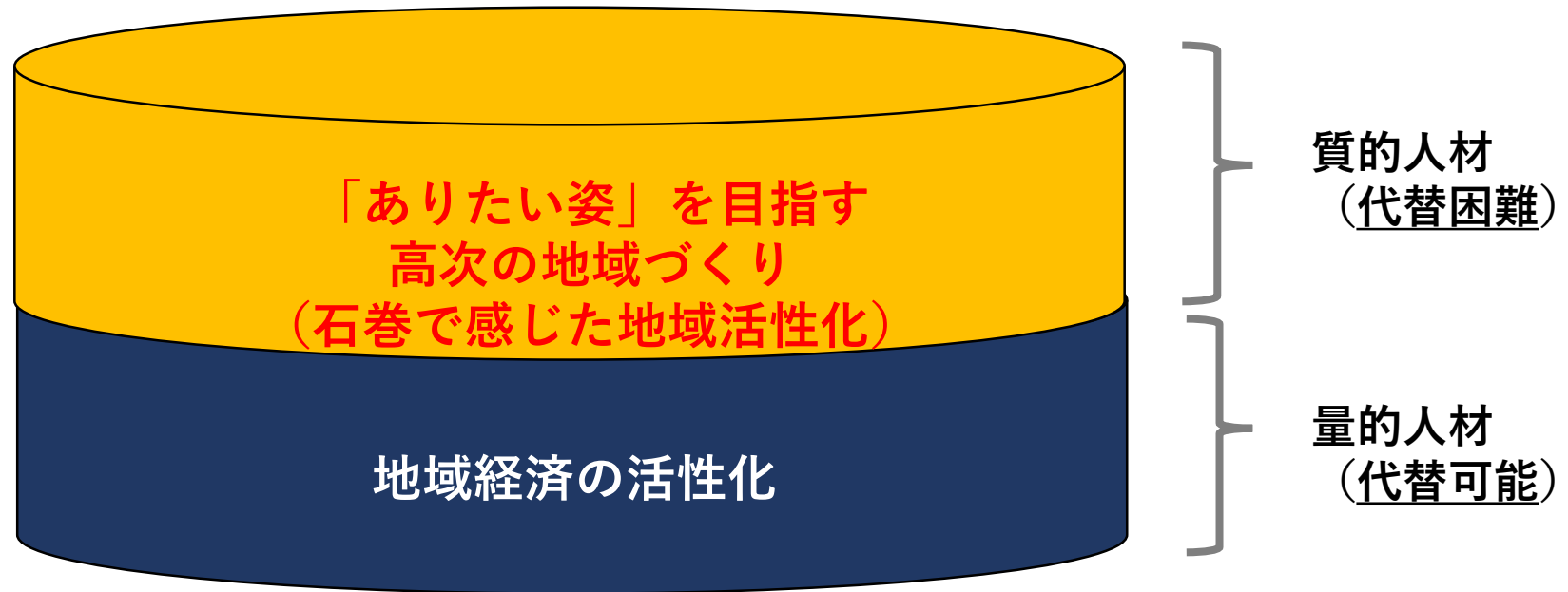
若者と地域活性化の関わりを考える上で
重要な課題

→若者の人口流出が地域活性化にどのような影響を与えるかについて考える

2. 地域活性化における人口流出とは

地域活性化の構造イメージ

担い手となる人材



- ・ 人口流出 = 地域経済の担い手（量的人材）の喪失という捉え方が多い
⇕
- ・ 高次の地域づくりには、地域を理解し、未来の地域のために当事者として取り組む人材（質的人材）が必要不可欠
- ・ 見ず知らずの地域の質的人材となることは容易でないため、
「人口流出 = 質的人材の喪失」という捉え方も必要

3. 質的人材の喪失の種類

質的人材：

地域を理解し、未来の地域のために当事者として取り組む意思のある人材

①質的人材の**不在**

そもそも、地域に対して興味を持っていない

②質的人材の**機会損失**

貢献の意思はあるが、きっかけや発揮する場がない

③質的人材の**流出**

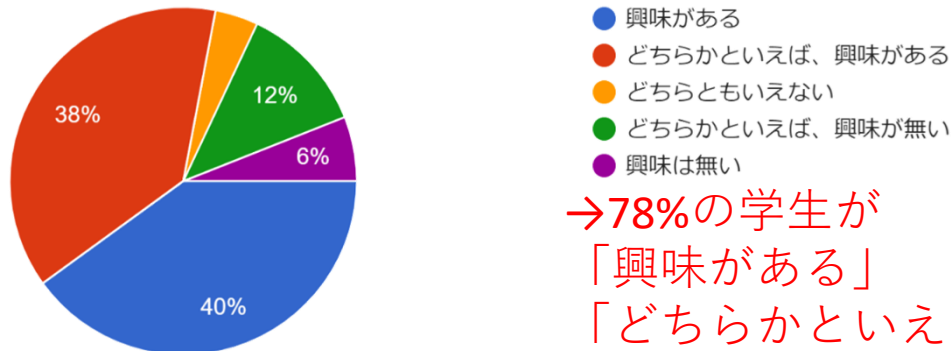
質的価値はあるが、地域から転出してしまふ

4. 若者と地域活性化

調査対象：地域資源創成学部3年生 50名
調査方法：Googleフォームによる

1. あなたは、故郷の地域活性化に興味はありますか？

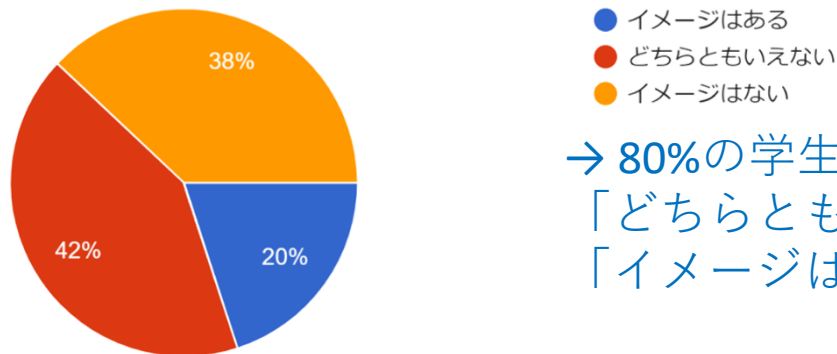
50件の回答



→78%の学生が
「興味がある」
「どちらかといえば、興味がある」

2. あなたは、将来、地域活性化の担い手として活躍しているイメージはありますか？（活動地域は限定しません）

50件の回答



→80%の学生が
「どちらともいえない」
「イメージはない」

全体として「地域活性化への興味はあるが、地域活性化の担い手となっているイメージは湧かない」という意見が多くみられる

4. 若者と地域活性化

- ・ 担い手となるイメージがないと回答した理由
「何が地域活性化に繋がるのか分からない」
「自分には素質がない」
「公務員ではなく、民間志望なので地域活性に密接するイメージがない」
- ・ 担い手となるイメージがあると回答した理由
「学んだことをアウトプットする機会があった。将来も必ずある」
「自分の周りにお手本がいるからイメージできる」
「自分の現在の活動が地域に貢献できている実感があるから」

機会損失を減らすために...

**地域活性化に携わるロールモデルとの出会い
地域での活動を通じた成功体験**

5. 若者が求めるもの

- ・ 就職活動を控えた学生の悩み
「何か成し遂げたい」、「力を試したい」、「やりたいことが分からない」「1人でやりきる自信はない」
- ・ 挑戦のジレンマ
やりたいことを探そうとする→やりたくないこと（よくわからないこと）に時間を浪費したくないと保守的になり、行動に移すことができない
- ・ 必要な支援
学生の興味の芽を見つけて、背中を押して、最後までサポートする。その上で、学生の挑戦と地域を上手く掛け合わせてあげるような取り組みが必要。その後、「自分のやりたいことができる地域」を見る目は変わってくるのではないか。
例) トビ 好！留学japan みやざきグローバル人材育成事業

6. まとめ

- ・地域活性化とは、自分が好きな地域が自分が好きな地域であり続けるよう努力し続けること。
- ・若者の人口流出には、量的人材の流出と質的人材の流出がある。経済的基盤を担う量的人材の流出は深刻だが、とって代わることのできない地域づくりを担う質的人材が流出（喪失）することにも焦点を当てるべきなのではないか。
- ・質的人材の喪失は、不在・機会損失・流出の3種類があり、それらを解決するためには若者のやりたいことと地域を掛け合わせる動きを促進させながら、地域活性化のきっかけとなる種をまき続けることが必要である。